

令和5年（2023年）6月19日（月）
大学コンソーシアム熊本地域創造部会
令和5年度「地域課題解決のための政策アイデアコンテスト」
事前説明会

「令和2年7月豪雨の被災地域における 地域の持続に必要な取組みについて」

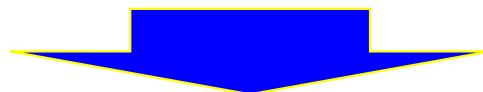
熊本県企画振興部企画課

1 県の課題設定の趣旨

【背景】

令和2年7月豪雨で大きな被害を受けた球磨川流域市町村※及び津奈木町（以下、被災地域）では、被災以前から人口減少や地域経済活動縮小が課題であった。中でも、15～19歳の若者の人口流出が顕著であり、当該地域を持続させるためには、若者が「働きたい」と思える仕事の創出や「訪れたい」と思える魅力ある地域づくりなどの取組みが必要と考えられる。

（※八代市、人吉市、芦北町、錦町、あさぎり町、多良木町、湯前町、水上村、相良村、五木村、山江村、球磨村の12市町村）



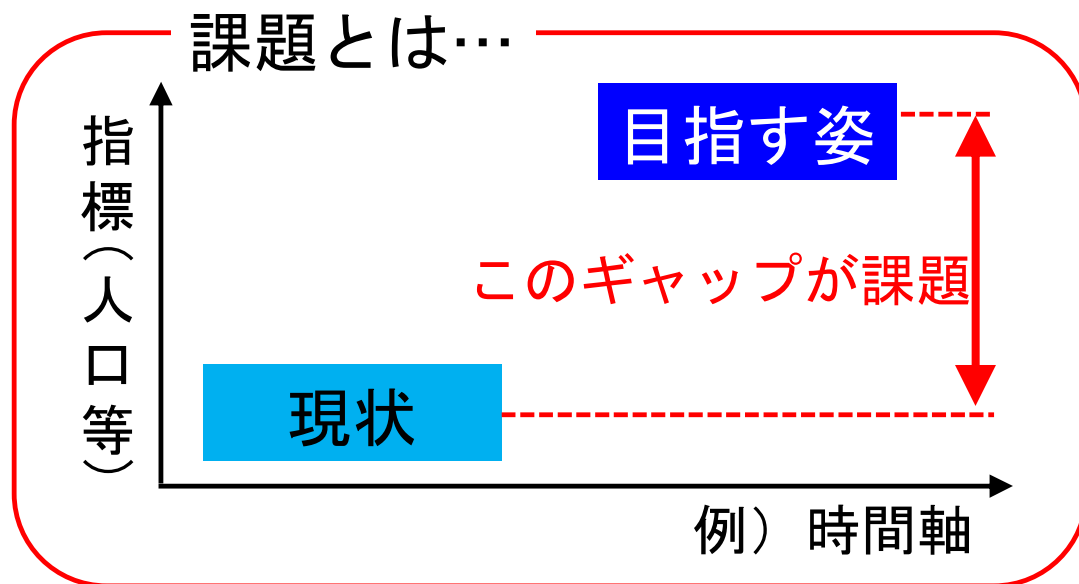
【課題】

令和2年7月豪雨の被災地域における地域の持続に必要な取組みについて

被災地域の市町村を対象に、地域の特徴やデータ等を分析して課題を見つけていただき、その地域でのフィールドワークや自治体へのヒアリングを通して、課題を解決できるような政策を検討していただきたい。

2 「地域課題」について

目指すべき「地域の持続」と「現状」のギャップを解消するために「すべきこと」が「地域課題」



目指す姿：令和2年7月豪雨の被災地域の持続の実現

例) 住民が幸せに生活し続ける。
(人口維持・増加、経済活動維持…など)

現 状：目指す姿とのギャップが生じている

3 取り組みの進め方（1）

1 市町村もしくは地域（複数市町村）を選び、地域の持続に関連することについて現状を把握

- 1 3市町村から1市町村もしくは地域（複数市町村）を選んでください。
※市町村は複数の市町村で1つの地域として選択することも可能です
- 「地域の持続（目指す姿）」について考える。
例）住民が幸せに生活し続ける。（人口維持・増加、経済活動維持…など）
- 対象市町村の現状を把握する（地域の持続に関連があるもの）
 - ・令和2年7月豪雨の被害・復旧状況
 - ・災害以前の人口推移
 - ・災害以前の経済活動
 - ・住民のニーズ など

市町村の復旧復興プラン、
各種統計データを参照

3 取組みの進め方（2）

目指す姿と現状のギャップから課題を見つけ、解決策としての仮説を立てる

4 地域の課題を見つける

- ・ 「取組みの進め方」の「2」「3」から現状で足りないこと（目指す姿とのギャップ）を明確化。
- ・ 解決策を考えやすくするため、課題はできるだけ細分化する。

5 解決策を考える（仮説を立てる）

- ・ どうすればギャップを埋められるのか、地域の強みや弱みを整理する。

6 仮説を検証する

- ・ 住民や自治体の関係部署の方々の声を聞く（フィールドワーク等を通じて）。
- ・ 現地で集められる細かいデータを参照する（地元商店の売上げ等）。

3 取組みの進め方（3）

目指す姿から仮説の検証までを踏まえて政策を立案

7 政策を提案する

「1」～「6」を整理し、政策を考える

- ・ 目指す姿と現状のギャップから、どの程度の時間を要するものかを踏まえた上で目標を設定。
- ・ 目標を達成するための手段を検討し、「すぐできるもの」や「時間がかかるもの」等に分類。
- ・ 最終目標までのロードマップ作成（手段毎に中間目標（マイルストーン）を立てる）。

※ 補足

行政の観点からは、人口減少社会において、高齢化等による行政コストが増大する一方で、行政サービスを安定的、持続的、効果的に提供するためには、地域間の連携が必要となってくる。

このことから、1つの市町村に限らず、複数の市町村で1つの地域として選択し、広域的な政策を検討することもできます。

4 まとめ

1 県の課題の趣旨

- 地域の未来を担うのは皆さんのような若い世代。
- 新しい視点で地域の課題を抽出・分析して、その課題を解決する政策を提案していただきたい。

2 取組みの進め方

- 対象市町村や地域を決め、「地域の持続」を考えた上で、データや市町村の復旧復興プランなどで「現状」を把握。
- そこから「課題」を抽出し、「解決策」を検討し、「仮説」を立てる。
- 住民や自治体にヒアリングなど行い、仮説を検証し、政策を立案する。

若者だから気がつく独自の政策提案をお待ちしています！